

<p>教育目標</p> <p>夢中になって遊ぶことを通して 自分の思いを伝え合い 人やものを大切にする子どもの育成</p>	
<p>年度末の最終評価</p>	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和7年10月28日	学校運営協議会理事
最終評価		

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の研究を通して、子どもたちが夢中になって遊ぶ中で“ときめき”と“ひらめき”が生まれ、探究心につながっていくことが分かった。子どもたちの“ときめき”と“ひらめき”を継続して研究していくことで、子どもたちに“ときめき”と“ひらめき”が生まれるきっかけは一体何なのか？という疑問が生まれた。今までの研究を通して、そのきっかけは『幸せ空間と面白空間』（2022年無藤隆）なのではないだろうかという仮説をたて、今年度は研究を進めていきたいと考えている。 ・子どもたちにとっての『幸せ空間と面白空間』とは、具体的に一体どういうものなのか？また、そこからどのような資質・能力が生まれているのかを具体的に探っていききたいと考えている。 ・研究保育や事例研修を通して園内研究を深め、保育を振り返りながら、教師の力量を高めていく。また、協議を行う際に、視点をもって協議を進められるようにシートを作成し、活用していく。 ・昨年度の成果と反省を活かし、近隣の保育園や小学校との架け橋プログラムの充実を図る。特に1年生と生活科と図化工作の教科学習との関係の中で交流を充実させていく。
--

- ・保護者や関係機関と連携をとりながら、支援を必要とする子どもに対する支援の在り方を検討し、個々の子どもに対する適切な支援を共通理解の下で行い、園全体で継続的に育ちを見取っていく。
- ・幼稚園生活全般を通して、安心感・安定感や親しみをもって人と関わりながら活動できるようにする。(友達や兄弟グループとの関係・教職員と関係・地域や小学校との関係)

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、園内研究の記録、毎月の子どもの姿・事例検討
- アンケート項目【子どもの様子】・登園を楽しみにしている ・自分から遊びを見つけて元気よく遊んでいる ・自分でできることは自分の力でやろうとする ・まわりの人に挨拶ができています ・友達や物などを大切にしようとしている ・人の話を聞こうとしている ・自分の思いを話そうとしている ・いろいろなことに興味を持って聞いたり行動したりする ・すごいね、ふしぎだね、えー? やったーなどと感動している ・子どもは相手を意識したり思いやったりしている 【幼稚園や教職員の様子】・幼稚園の教育保育について安心している ・幼稚園は施設、設備の安全や衛生に十分な注意を払っていて安心している ・教職員は明るい笑顔で保育をしたり子どもに関わったりしている ・先生は子どもにメリハリのある保育をしている ・先生は子どもの話をよく聞いてくれる ・先生は保護者の話をよく聞いてくれる ・保護者として子どものことを先生や職員によく話したり相談したりする

中間評価

各種指標結果

【子どもの様子】では、「自分から遊びを見つけて元気よく遊んでいる」「色々なことに興味関心を持って聞いたり行動したりする」が「そう思う・だいたいそう思う」が100%、「自分の思いを話そうとしている」「すごいね、ふしぎだね、やったー!などと感動している」「子どもは相手を意識したり思いやったりしている」は「そう思う・だいたいそう思う」が96%「登園を楽しみにしている」が、「そう思う・だいたいそう思う」が97%、「人の話を聞こうとしている」は「そう思う・だいたいそう思う」が86%、「自分でできることは自分の力でやろうとする」「友達や物などを大切にしようとしている」は「そう思う・だいたいそう思う」が82%「まわりの人にあいさつができる」は「そう思う・だいたいそう思う」が72%、だった。

【幼稚園や教職員の様子】では、全ての指標において「そう思う・だいたいそう思う」が100%だった。中でも「教職員は明るい笑顔で保育をしたり子どもに関わったりしている」は「そう思う」が100%だった。

自己評価

分析 (成果と課題)

“ときめき”と“ひらめき”が生まれるきっかけとして子どもたちにとっての「幸せ空間・面白空間」の研究をしていることで、夢中になって遊ぶ子どもたちの姿を大切に捉えることができ、その中で育ちを教職員だけではなく、保護者にもしっかりと伝わっているのだということが分かり成果と考えられる。「人の話を聞こうとしている」「自分でできることは自分の力でやろうとする」「友達や物などを大切にしようとしている」は、3歳児のポイントが低い傾向が見られた。「まわりの人にあいさつができる」は、学年を問わずポイントが低い課題として考えられる。

分析を踏まえた取組の改善

3歳児の育ちについて保護者の皆様方にお伝えしながら、理解をしていただけるようにしていきたい。特に「人の話を聞こうとしている」「自分でできることは自分の力でやろうとする」「友

	<p>達や物などを大切にしようとしている」は、様々な経験を通して、3年保育の中で培われていく力だと考える。まだまだ成長過程であるということを理解していただけるように伝えていきたいと考える。「まわりの人にあいさつができる」は、朝の登園時に親子でしっかりと挨拶ができるように働きかけていきたいと考える。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>指標の変更は行わないが、「まわりの人にあいさつができています」の項目に関しては、子どもだけではなく大人の意識を高めていけるように取組を考えていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>運動会の様子を実際に見たり、日頃の遊びの様子などをパワーポイントで見せてもらったりしていると、子どもたちの育ちが非常によくわかる。それがアンケート結果にも反映されていると思う。子どもたちの人数は少ないが、やらされているのではなく、子どもたち自ら主体的に遊んだり、活動したりしている様子がとても良いと感じる。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>

(2) 幼保小の架け橋プログラムの推進に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翔鸞小学校 1 年生と年長児で、教育課程に沿って年間を通して幼小交流を実施する。(管理職、担任同士で連携を密にとる) ・翔鸞小学校で毎週火曜日に行われるロング昼休みを活用して、小学校の校庭を園児が自由に使わせていただいたり、幼稚園の園庭を自由に 1～6 年生の小学生が使って遊んだりする中で、自然に幼児と小学生が関りをもてる場面を設けていく。 ・1 年生担任と幼稚園が連携を取り、スタート期に幼稚園の担任が朝休みの時間に出前保育に行き、子ども達との交流を図る。4 月初旬に幼稚園と小学校 1 年生の担任、教務主任とで年間計画を立てる。この取組を整理して幼小合同研修を行うことで、幼児期の子ども達の育ちや就学後の子ども達の姿や育ち、教師の指導について共有し、それぞれの学校・園での指導に生かす。 ・幼稚園が 1 週間公開保育を行い、好きな時間帯に保育を見に来ていただく日を設ける。 ・今年度は生活科と図画工作の教科学習の中で交流活動を充実させながら、教員同士の連携、接続を図っていく。
--

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・年間計画の作成および定期的な小学校との打ち合わせ
- ・スタート期に幼稚園の教員が1年生の教室に出向き、出前保育を行う。
- ・小学校や保育園からの幼稚園の研究保育への参加
- ・授業参観などの学校行事への参加
- ・スタートカリキュラムにかかわる夏季幼小合同研修会の実施（夏季休業中）
- ・アンケート項目【連携・接続】・幼稚園は小学校や中学校、大学とよく関わっていると思う ・小学校との交流、連携は子どもの育ちにつながっている

中間評価

各種指標結果

「幼稚園は小学校や中学校、大学とよく関わっていると思う」が「そう思う」が100%、「小学校との交流、連携は子どもの育ちにつながっている」は「そう思う・だいたいそう思う」が100%だった。

自己評価

分析（成果と課題）

昨年度より、架け橋の取り組みの基盤が構築されてきたこともあり、翔鸞幼稚園と翔鸞小学校の子どもたち同士の交流、教員同士の合同研修会等が計画的に取り組めるようになったこと、また、その取り組みの成果を、機会あるごとに保護者にも具体的に伝えることができたことが成果と考えられる。

分析を踏まえた取組の改善

架け橋期のカリキュラム作成を進めていけるように、今年度の成果と課題をまとめていきたいと考えている。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

指標の変更は行わないが、今年度から給食交流が年3回になったり、4歳児が支援学級と交流をしたりなど、新たな取り組みが始まっている。今後も、互いの子どもたちにとってどのような育ちや、個々の安心感につながっているのか、また就学後の子どもたちの育ちについても検証していきたい。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

今年度、架け橋の取り組みの中で、翔鸞幼稚園と相談しながら1年生の教室内の環境構成を考え直したことで、子どもたちが安心して過ごせるスペースができた。現在、来年度の就学相談を行っているが、保護者に1年生の教室を見せたら安心していただける様子が見られる。架け橋を通して子どもたちの安心感を育むことができていると考える。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

分析を踏まえた取組の改善

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
---------	----------------

(3) 預かり保育に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間生活する預かり保育が、利用する子どもたちにとって安心して過ごせる場所になるように環境を整える。 ・保護者にとって、安心して仕事ができるための預かり保育になるように安全に配慮して保育を行う。 ・地域の方や大学生と連携をして、取組ができるように企画・調整していく。
(取組結果を検証する) 各種指標	<p>・一人一人の家庭状況を把握し、安心安定を大切にした預かり保育での関りを検討していく。</p> <p>【預かり保育】・なかよし広場（預かり保育）を安心して活用している ・子どもはなかよし広場で楽しく過ごしている</p>

中間評価

	各種指標結果 <p>「なかよし広場（預かり保育）を安心して活用している」「子どもはなかよし広場で楽しく過ごしている」が「そう思う・だいたいそう思う」が100%だった。</p>
自己評価	分析（成果と課題） <p>預かり保育を利用している子どもも、保護者も安心かつ、楽しく利用していただいているということが分かった。</p>
	分析を踏まえた取組の改善 <p>引き続き、子どもも保護者も安心して利用していただけるように預かり保育を行っていきたい。また、3歳児の利用率が多くなってきているので、体力的な面も考慮しながら遊びの内容を考えていきたい。</p>
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 <p>指標は変更しないが、更なる預かり保育の充実に向けて、より一層の工夫と、安心して遊びこめる環境づくり、地域にいらっしゃる方をゲストティーチャー（書道で遊ぼう・空手教室・リズムジャンプ・大学生との交流活動など）として招き、イベント等を預かり保育の活動の中に入れていく。</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <p>預かり保育の利用率の高さに驚いた。昔は仕事をしている保護者のお子さんが預かり保育を利用することが多かったが、今は随分と変わってきているのだと感じた。これからの時代は、預かり保育の充実が求められているのだということが分かった。</p>

価	
---	--

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(4) 子育ての支援に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週3回の未就園児対象の教育相談(たんぼぼ組)や満3歳児子育て支援クラス(いちご組・9月からは16時までの預かり保育開始)、園庭開放を継続して行う。 ・毎月の教育相談や園庭開放の予定をホームページやInstagramに載せるだけでなく、お便りにして、児童館や図書館、小規模保育施設などに配布して情報発信を行う。 ・PTAが主体となって「子育て語り合いサロン」を企画し、情報を発信する。 ・子育てが困難とみられる保護者に対して支援する体制を作り、その困りの解決に向けて、専門機関を紹介し、幼稚園と共有していく。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談回数及び参加人数、参加者の声を拾い上げていく ・未就園児担当の子育てボランティアの方と管理職が週に一度、未就園児について話し合ったり、イベントの開催内容について考えたりする。 ・アンケート項目【子育て支援】・保護者として子どものことを先生や職員によく話したり相談したりする

中間評価

各種指標結果	
「保護者として子どものことを先生や職員によく話したり相談したりする」は「そう思う・だいたいそう思う」が100%だった。	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <p>キンダーカウンセラーさんが年間8回来園してくださることになり、子育てに対して不安な思いを抱えている保護者に対して、専門的な知見でお話を聞かせていただける機会ができたことも成</p>

価	果につながっていると考える。現時点では、満3歳児子育て支援クラスの利用者が少ないため、多くの方に利用していただき、子育て支援につながるようにしていきたいと考えている。
	分析を踏まえた取組の改善 キンダーカウンセラーさんとの連携や教員とのカンファレンスを充実させ、子育て支援につなげていく。また、満3歳児子育て支援クラスについての取り組みを地域の方に周知していただけるよう、たんぽぽ通信やSNS等を利用して発信していく。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 指標の変更は行わないが、子育て支援の取組を継続し、保護者の支援を継続してしっかりと行っていく。また、支援の必要な子どもに対する子育ての不安などは、キンダーカウンセラーさんにつなげたり、教員がキンダーカウンセラーさんとの連携をとったりしながら保護者支援をおこなっていききたい。必要があれば専門機関につながっていけるようにサポートしていく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 若い保護者さんは、Instagramをよく利用しているので、翔鸞幼稚園で行っている子育て支援等を発信していくことは必要だと感じる。まずは、未就園児の方に多く来ていただけることが大切であるとする。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(5) 地域とのかかわり (社会に開かれた教育課程) に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々との交流を主とした活動を取り入れて年間指導計画を作成する。 ・地域の方々の意見を聞き、その意向を反映した取組を計画する。
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会や地域の各種会合において、地域の方々の意見を聞く。 ・アンケート項目【連携・接続】・幼稚園は地域の方と行事や取組でよく関わっていると思う

中間評価

各種指標結果
「幼稚園は地域の方と行事や取組でよく関わっていると思う」が「そう思う・だいたいそう思う」が100%だった。

自己評価	分析（成果と課題） 「苗屋さん」や「PTA夏祭り」に地域の方に来ていただき、子どもたちと触れ合っていたことや、地域の様々な行事にも参加することができ、高評価を得ている。子ども達にとっても保護者にとっても温かいつながりの生まれた取組となった。
	分析を踏まえた取組の改善 働き方改革も意識しながら、地域の方と連携した行事について取り組んでいく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 今後も、地域の方々とのふれあいを通して、子ども達の育ちにつながっていくように、地域との連携内容を考えていく
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 今年度、柏野学区と統合したので、色々な地域の行事を一緒に行うようになってきている。その中で、翔鸞幼稚園の存在を伝えることで、園の取り組みを周知していってもらえるのではないかと考える。地域と連携していきながら、翔鸞幼稚園をアピールしていく場として活用していくことも大切だと考える。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（6）教職員の働き方改革について

重点目標 ・教職員一人一人が勤務時間を意識し、保育終了後の時間を計画的に、有効に使い、教材研究や事務処理を行う
具体的な取組 ・毎週水曜日は「ノー残業ディ」に位置づけ、定時に帰宅するように努める。 ・電話対応時刻を午後6時までとする。 ・帰宅を促し、午後7時頃施錠できるように努力する。 ・年休や割振り、回復が取れるように長期休業中の取組を精選する。 ・校務支援員と連携を図りながら、教頭や担任の仕事の一部を補助してもらいやすいよう計画する。
（取組結果を検証する）各種指標 ・超時間勤務の時間数を把握し、月40時間以内におさまるように意識していく。 ・年休の取得状況（年休を5日はとる）を確認していく。

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・超過勤務時間は、管理職2名が40時間を超えている。 ・年休は、ほぼ予定通りの消化できている。 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援員、学び支援員は担任の負担軽減につながっている。 ・管理職の超過勤務時間が減りにくいことが課題と考える。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職自身の意識改革が必要である。仕事の優先順位や段取り等を見直しをもって行っていくことが必要である。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p>「超時間勤務の時間数を把握し、月40時間以内におさまるように意識していく」を実践していくことを目標とする。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>園庭の木の剪定や夏ミカンの収穫など、園の教職員だけで取り組むことが難しい場合は、地域で協力していくので声をかけてほしい。</p>

最終評価

<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>